

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者 西山博之・筑波大学医学医療系泌尿器科・教授

研究要旨（膀胱癌、精巣がん臨床データベースの現状と将来）

日本泌尿器科学会において行われてきた尿路上皮癌・精巣腫瘍登録事業と2018年から始まったNCD登録における尿路上皮癌・精巣腫瘍の手術症例に関する登録状況を比較した。NCD登録は専門医制度と紐付けされていることもあって従来のがん登録と比較して登録の悉皆性が高いと思われた。今後はNCDに登録されたデータの利活用が期待される。一方、NCD登録では一部の疾患を除いて従来のがん登録事業で得られていた予後情報がなく、今後の検討課題である。

A．研究目的

泌尿器科学会での過去の登録状況と現在行っているNCDの現状を調査すること

B．研究方法

過去と現在の登録方法の相違が何かを記載する。

（倫理面への配慮）

個人が特定されない登録データに基づく比較研究である。また、遺伝子情報などを取り扱う事は無い。

C．研究結果

日本泌尿器科学会におけるがん登録事業は2002年に膀胱癌を対象にはじまったが、希少癌に相当する上部尿路癌（腎盂尿管癌）や精巣腫瘍は各々2005年および2008年に実施された。この学会主導の臓器がん登録は通年登録ではなく、3~5年に一回の調査であり、3年程度の予後情報が付いた後ろ向き研究として実施された。対象は、手術症例のみならず薬物療法を含む全ての症例が対象であった。一方、膀胱癌を含む尿路上皮癌および精巣腫瘍に関するNCD登録は2018年から開始したが、周術期の合併症などを把握する事を見据えた手術症例のみの登録である。

従って、従来の臓器がん登録事業とNCD登録を比較すると、前者では薬物療法に関するデータが多く、後者ではほとんど無い。また、周術期のデータは前者と比較すると、後者では登録項目が一部の尿路上皮癌では充実しているが、精巣腫瘍や経尿道的切除術が対象となる筋層非浸潤性膀胱癌では基本項目のみの

登録となっている。

登録の悉皆性についてみると、前の登録事業では、対象施設の20 - 30%、基幹教育施設であっても30 - 35%程度に過ぎなかった。また3~5年毎の調査であり、通年調査とはなっていない。一方、NCD登録は、専門医制度における教育認定施設の要件に含まれるため、悉皆性はかなり高いと思われる。

NCD登録では予後情報が限られるため、院内がん登録データベースを用いて泌尿器科領域の希少癌のエビデンスとしてどのような研究成果が得られるかを検討した。その結果、尿膜管癌のような希少癌や後腹膜肉腫のような他診療科にわたる疾病の調査には有用である一方、がん登録事業に比すと登録項目が少ない点が問題である事も分かった。

D．考察

日本泌尿器科学会におけるこれまでの膀胱癌・腎盂尿管癌・精巣腫瘍の臓器癌登録は毎年行われているわけではなく、また、専門医制度との紐付けがなかったため、登録の悉皆性が極めて低かった。一方、NCD登録は専門医制度と紐付けされているため、その登録悉皆性は極めて高いと考える。登録情報に関しては、前者では全情報を登録するのに対して、NCD周術期のデータや手術成績を把握する事を主たる目的としたため、薬物療法などによる長い経過についての登録が不要であった事も登録が進んだ原因と考える。こういった手術に関する登録データは、新規術式の保険収載申請などの際に有用であると思われる。

今後、NCD-Personsの導入により、会員個人の手術症例の管理が容易になり、専門医の申請や更新に活用が可能となる。また、手術関連のリスクカリキュレーターなどの公表も

予想され、会員による正確なデータ入力の重要性が要求される。学会などにおいて、本登録事業の重要性を引き続き会員に周知していく必要があると思われる。

尿路上皮癌に対する治療薬が次々と保険収載される中、薬物療法の重要性は高まると考える。また精巣腫瘍においても手術に関する情報だけでなくその後の再発や予後情報が重要となる。従って、手術症例のみならず、今後は進行癌に関する NCD 登録や予後情報をどのように取り入れるかも考慮する必要があると思われる。

E . 結論

従来の臓器癌登録と比較して、手術症例のみではあるが、NCD 登録を行う事によって、登録の悉皆性は高まったと考える。専門医制度との紐付けが登録悉皆性の向上に役立ったと考えられた。

F . 健康危険情報

特になし

G . 研究発表

1. 論文発表

Mishima S, Taniguchi H, Akagi K, Baba E, Fujiwara Y, Hirasawa A, Ikeda M, Maeda O, Muro K, **Nishiyama H**, Takano T, Tsuchihara K, Yatabe Y, Kodera Y, Yoshino T. Japan Society of Clinical Oncology provisional clinical opinion for the diagnosis and use of immunotherapy in patients with deficient DNA mismatch repair tumors, cooperated by Japanese Society of Medical Oncology, First Edition. Int J Clin Oncol. 25(2) 217-239, 2020

Sanada Y, Harada M, Kunitomi C, Kanatani M, Izumi G, Hirata T, Fujii T, Suzuki N, Morishige K, Aoki D, Irahara M, Tsugawa K, Tanimoto M, **Nishiyama H**, Hosoi H, Sugiyama K, Kawai A, Osuga Y. A Japanese nationwide survey on the cryopreservation of embryos, oocytes and ovarian tissue for cancer patients. J Obstet Gynaecol Res. 45(10) 2021-2028. 2019

Nagumo Y, Kojima T, Shiga M, Kojo K, Tanaka K, Kandori S, Kimura T, Kawahara T, Kawai K, Okuyama A, Higashi T, **Nishiyama H**. Clinicopathological features of malignant urachal tumor: A hospital-based cancer registry data in Japan. Int J Urol. 27(2) 157-162 2020

Naito Y, Mishima S, Akagi K, Igarashi A, Ikeda M, Okano S, Kato S, Takano T, Tsuchihara K, Terashima K, Nishihara H, **Nishiyama H**, Hiyama E, Hirasawa A, Hosoi H, Maeda O, Yatabe Y, Okamoto W, Ono S, Kajiyama H, Nagashima F, Hatanaka Y, Miyachi M, Koder Y, Yoshino T, Taniguchi H. Japan society of cli-

nical oncology/Japanese society of medical oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of tropomyosin receptor kinase inhibitors in adult and pediatric patients with neurotrophic receptor tyrosine kinase fusion-positive advanced solid tumors, cooperated by the Japanese society of pediatric hematology/oncology. Int J Clin Oncol. 25(3) 403-417 2020

Matsumoto H, Shiraishi K, Azuma H, Inoue K, Uemura H, Eto M, Ohyama C, Ogawa O, Kikuchi E, Kitamura H, Shinohara N, Takahashi S, Tsuzuki T, Nakagawa M, Narumi Y, **Nishiyama H**, Habuchi T, Hinotsu S, Fujii Y, Fujimoto H, Mizowaki T, Matsuyama H. Clinical Practice Guidelines for Bladder Cancer 2019 edition by the Japanese Urological Association: Revision working position paper. Int J Urol. 2020 Epub ahead of print

2. 学会発表

第 57 回日本癌治療学会学術集会
院内がん登録を用いた尿膜管癌の臨床的検討
南雲義之、小島崇宏、神鳥周也、木村友和、西山博之
2019 年 10 月 25 日 福岡国際会議場

第 57 回日本癌治療学会学術集会
後腹膜および男性生殖器由来の肉腫の特徴：
院内がん登録を用いた予後解析
木村友和、神鳥周也、南雲義之、小島崇宏、西山博之
2019 年 10 月 24 日 福岡国際会議場

第 57 回日本癌治療学会学術集会
院内がん登録を用いた我が国における腎細胞がん診療実態に関する研究
小島崇宏、神鳥周也、木村友和、南雲義之、西山博之
2019 年 10 月 24 日 福岡国際会議場

第 107 回日本泌尿器科学会総会
本邦における後腹膜および男性生殖器由来の肉腫の特徴：院内がん登録を用いた解析
木村友和、神鳥周也、南雲義之、小島崇宏、西山博之
2019 年 4 月 19 日 名古屋国際会議場

3 . 書籍

膀胱癌診療ガイドライン（2019 年版）編集：
日本泌尿器科学会

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療ガイドライン 第 2 版 2019 年 10 月 編集：日本癌治療学会/日本臨床腫瘍学会

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特になし